2011 SPRING

医療 つるつる いっぱい！

速報

2011年4月6日　福井民医連

医学生・被災地へ。

金沢大2年（福井出身）　Tくんのレポート

東日本大震災の発生から３週間。被災者の生活を支える人手も物資も、まだまだ足りません。避難所での生活困難、ライフラインが途絶え、物資が届かない中での自宅生活、原発事故対応、子どもやお年寄り、障がいのある方など「災害弱者」の苦難も深刻化しています。被災者の苦難が広がる中、「ぜひ被災地支援に行きたい。」と手を挙げ、被災地に向かった医学生がいます。

避難所で爪ケア中

津波で折れた電柱

３月２８日夕方、職員とともに福井を出発したＴくん。２９日に無事仙台入りし、早速物資整理に取り組みました。３０日からは足湯セットを持って避難所訪問。震災発生後しばらく入浴されていない方も多く、大変喜ばれました。医療支援はだいぶ入っているものの、普段飲んでいる薬が流されたり、慣れない避難所暮らしでストレスで病状を悪化させる方が目立っています。３１日の地域訪問では、ガソリンがなく病院に行けなかった生後２カ月の赤ちゃんと地域訪問で出会い、すぐにタクシーを呼び受診させました。必要な医療すら、燃料不足の中でちゃんと受けさせる事ができない現地の医療状況に、胸が詰まる思いです。避難所で子どもたちを喜ばせるため、ボールを借りてジャグリングを披露したＴくん。「自分に出来ること」を通して子どもたちの喜ぶ姿に自信を得ているようでした。

Ｔくんの感想（抜粋）

津波の爪痕がまだ残っていて、言葉を失ってしまいました。まだ学生という事もあり、あまり支援らしい支援はできませんでしたが、一緒に回った先生から「お話を通じて被災者を精神的に支えるのも大切」といわれた事、避難所訪問や地域訪問の中での「ありがとう」の言葉が、本当に励みになりました。専門職の方が身体的にも精神的にも被災者の支えになっていて、僕も早く医師になりたいという気持ちが募りました。被災地支援のために行ったのに、逆に自分自身も、被災者の方に励まされました。

避難所でジャグリングの手ほどき
（Ｔくん撮影）

福井民医連は３月１８日の支援物資輸送に２名を派遣して以来、今日まで延べ１０名を被災地に派遣しています。２日からは、福大３年のＮくんが、たけふ生協歯科・奥村所長らと宮城県松島町の診療所支援に向かいます。また、１４日からは光陽生協病院の天津副院長を先頭に医療支援チームが被災地に向かいます。福井民医連は、今後も被災地の医療支援・生活支援を行っていきます。

東日本大震災支援・ボランティアのお問い合わせは　０７７６－６１－２６７８　福井民医連まで